

分野	荒廃山地の復旧等の治山			事業番号	4	事業名	山地治山(予防治山)				
市町村名	安曇野市	ふりがな箇所名	はんざわ半沢		事業年度 (完了年度は見込み)	H24 年度 ~ H25 年度					
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	谷止工 1個、護岸工 1個、山腹工 0.25ha				H23年度末 事業進捗率	- %				
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	- %				
	H24年度実施内容	谷止工 1個、護岸工 1個、山腹工 0.10ha				用地補償費ベース	- %				
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残					
財源内訳	事業費計(千円)	46,000			28,000	46,000					
	国庫支出金	23,000			14,000	23,000					
	その他										
	県債	20,700			12,600	20,700					
	一般財源	2,300			1,400	2,300					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点			
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上	1~9戸	0戸	B	5				
		保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし		5				
		保全対象に災害時要援護者関連施設があるか	重要施設	一般施設	なし		0				
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上	保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	保安林率30%未満		2				
		小計					12				
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上	災害履歴地	なし	A	5				
		交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小		3				
		防災計画上の位置づけ	あり	なし			5				
		小計					13				
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上	B/C1.0以上2.0未満	B/C1.0未満	A	10				
		早期発現度	3年未満	3年以上5年未満	5年以上		7				
		流域の総合調整	あり	なし			0				
		小計					17				
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満	50m以上200m未満	200m以上	A	7				
		地形、地質の状況	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形	火山噴出物、花岡岩、第3紀層、破砕帯	その他		2				
		平均溪床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)	5°~10°未満(20~30°未満)	5°未満(20°未満)		3				
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし	あり(概ね満砂)	あり(ポケットあり)		3				
		危険地区危険度	Aランク	Bランク	Cランク		なし	7			
		小計					22				
	計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い	市町村要望有り	特に要望ない	B	7				
		事業情報の共有	関係者以外にも周知	関係者中心に周知	特に周知していない		3				
		住民参加の状況	住民が直接参加	住民市町村意見を反映	住民意見反映していない		3				
		小計					13				
	費用対効果(B/C)	2.88		評価の合計			A	77			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該旧明科地域は第三紀の未固結泥岩の脆弱な地盤が広がっており、広範囲な地すべりが発生するなどした比較的災害に脆弱な地域である。このため、安曇野市の中でも特に旧明科地区の防災意識は伝統的に高く、地元消防団の活動も活発な地区である。また、上生野地区を南北にはしる県道下生野-明科線は地区の重要な幹線道路であるが、この県道の北側(生坂村側)は地形が非常に急峻で豪雨などの災害に弱いため、南側(明科中心部側)の通行を確保しないと、豪雨災害時に孤立する恐れがある。									
	地域からの要望経緯	平成23年5月豪雨災害による被害があったため、災害後のH23年6月に地元安曇野市より災害復旧の要望があった。また、H23年6月に地元区長から事業要望を受けた。									
	事業説明等の経緯	平成23年5月豪雨災害で発生した3箇所の山腹崩壊は、どれも放置すれば県道への土砂供給源となるため喫緊の対策として山腹工を実施する必要がある。災害発生後、H23年8月に地元関係者に同意を得たのち、H24年度の治山事業についてH23年12月に地元説明会を実施した。									
	環境・景観への配慮項目	筋工の素材に丸木を選定して環境負荷を減らす計画であるほか、在来植生の種子を捕捉して自然遷移を助ける緑化工(伏工)を採用して自然環境に配慮する。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。									
	特記事項	特になし。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	平成23年5月豪雨により山腹崩壊が発生し、山腹内に不安定な状態で堆積している。そのため今後の降雨により土砂が流出する恐れがあることから、対策を図る必要がある。			政策評価課意見	重要性、緊急性が認められる。						